

***明暦の大火ゆかいの地を訪ねて
(回向院、本妙寺、広小路)***



JR 両国駅の西口から徒歩 10 分の所に回向院がある。江戸幕府が、明暦の大火 (1657 年) 後に本所牛島新田の地 50 間 (約 90M) 四方に 10 万 8 千人ともいわれる犠牲者を埋葬して塚を立て建立した寺である。種々の宗派の犠牲者がいたことから諸宗山無縁寺回向院と名付けられた (東京都の歴史散歩) 写真は左 回向院にある供養塔と下 明暦の大火案内板。

さて、火元の本妙寺は、出火当時、本郷丸山にあったが現在は、巣鴨に移転している。

本妙寺のホームページをみると、『一(振袖火事)中略-これは、伝説で火元が本妙寺であることに関しても不審が多く「本妙寺火元引き受け説」も語られています。』と記載されています。

「災害復興の日本史」によれば、「実際の火元は、老中阿部忠秋の屋敷であったが、幕府威信の為近くにあった本妙寺が火元とされたというものである。本妙寺は火元に拘わらず被災後



も寺地を動かず、寛文 7 年 (1667) には寺格が出世しており又阿部家が幕末まで毎年本妙寺に米 10 表届けていたといったことが根拠とされている。」写真左は、本妙寺にある明暦の大火 (振袖火事) 供養塔。



幕府は大火後、延焼防止対策として橋に向かう沿道一体を日除け地に指定して空き地とした。やがてこれが広小路となり、江戸三大広小路の一つとして上野、浅草に並び称される盛り場に発展した。両国広小路の記念碑が東日本橋の両国橋を渡る手前にある。右写真。

